

令和6年度きみの地域づくり学校座学編第4回実施報告

【日時】2024年11月16日（土）、17日（日）

【場所】美里の湯 かじか荘（16日） / 紀美野町総合福祉センター（17日）

【参加者】受講生23人（社会人11人、大学生・大学院生12人）、
スタッフ9人、運営協議会会員6人、その他（町議会議員等）6人 計44人
シンポジウム一般参加者45人

【内容】テーマ：地域に学ぶ人づくり

≪第10講≫

『連携力』を育む地域人教育

講師：追手門学院大学 教授 牧野 光朗 氏



講義内容

過去の講義の振り返りとして、自己完結型人材と連携力重視型人材の違いについてご講義いただいた後に、飯田のシンボル「りんご並木」を事例にグループワークを行い、活発な議論を通して課題解決に必要な連携力や「共創の場（議論、評価、意識共有の場）」を意識した活動ができました。

受講生の感想（抜粋）

- ・グループワークを経験し久しぶりに何かプロジェクトを立ち上げる気分になりました（協力隊員）
- ・地域と教育機関、企業などがうまく連携できるようコーディネーターとしての力もつけていきたい（行政職員）
- ・地域内での連携や多様な関係者の協働の重要性を聞くことはあったが、それを実現するうえで「共創の場」を設ける手法まで教えていただく機会がなかったのでとても学びになった（大学生）

≪第11講≫

「芸術・舞台芸術を中心においた地域人教育の実践」

講師：りら創造芸術高等学校長/学校法人りら創造芸術学園 理事長/
きみの地域づくり学校運営協議会長 山上 範子



講義内容

和歌山の生きた素材や自然環境を日常として暮らしながら体感してもらいたいという高校設立の経緯や、御田舞の復活や世界民族祭の開催等、普段から地域と連携されていることを知ることができました。また、紀美野へ還ってくる卒業生の存在にも触れられ、還流の芽を窺うことができました。

受講生の感想（抜粋）

- ・山上先生の思いが皆に伝わり皆の心も動かされているなど感じました（行政職員）
- ・勉強する力よりも、生きていく力、人として立派に育つことがその後の人生が豊かになるかを左右するのではないかと思います（大学生）

シンポジウム「【地域×教育】いま子育て世代が求める教育とは？-教育移住の視点から-」

《基調講演/第12講》

「森が僕らのようちえん～地域資源を活かした人づくり～」

講師：NPO 法人智頭の森こそだち舎 理事長 西村 早栄子 氏



講義内容

鳥取県智頭町の「森のようちえんまるたんぼう」を中心に、田舎ならではの子育てや教育の多様な実践を通して「こそだち」の選択肢を広げて来られた、これまでの活動についてご講義いただきました。

受講生の感想（抜粋）

- ・都会で住む親が子どもの教育や子育てのために住まいを変えてまで「そこに行かせたい」ということに最も驚きがありました（行政職員）
- ・子どもの意見・意思を大切にし、個性を伸ばすことができる環境の大切さを学びました（大学生）
- ・育ちを信じて待つという考え方です。こどもを育てる時にどうしても甘やかしたりしがちですが、そのような考え方をこらえる事でたくましいこどもが育つんだなと思いました（大学生）

《パネルディスカッション》

テーマ：教育移住を念頭に置いた「地域の教育の可能性」、

「子育て世代が今、地域の教育に求めるものは？」

パネリスト：西村 早栄子 氏

山上 範子

仙石 恭子 氏（一般社団法人うつほの杜学園設立準備会 代表理事）

奥野 絵美 氏（鳥取県庁政策戦略本部とっとり未来創造タスクフォース係長）

ファシリテーター：藤田 武弘（追手門学院大学 教授/和歌山大学 名誉教授/きみの地域づくり学校長）



内容

前半では、認証制度を通して森のようちえんを支援してきた鳥取県、1人でプロジェクトを立ち上げ、地域住民等の多数の協力を得ながら、田辺市中辺路に探究型グローバル小・中学校を来年度設立予定の「うつほの杜学園」、紀美野町で美術や舞台芸術を中心に生徒主体の教育に18年間取り組まれてきた「りら創造芸術高等学校」のそれぞれの紹介をいただきました。後半では、子育てや教育に携わる実践者として、また、子育てをされている親としての双方の視点から、「地域の教育の可能性」と「子育て世代が地域に求める教育」について、パネリストから活発に多数の意見をいただきました。

【事務局（担当：藤井）より】

「地域に学ぶ人づくり」という新しい切り口から、それぞれの地域（長野、鳥取、和歌山）、立場（首長、学校、幼児教育）での実践を踏まえたお話しから、「還流人口（Uターン人材）」や「地方での子育てや教育の可能性」について学びを深めることができました。人口減少社会の中で非常に大切な存在である子どもや若者を地域で育てるための場づくりの動きが広がることに期待したいと思いました。